

助成番号：154

農・畜産系学生のための英語ランゲージ・ラボラトリー教材

伏見 茂・西出 公之

教養課程英語研究室

1. 目 的

農業・畜産を題材にした英語の音声教材は、現在のところ、Macmillan の *Special English : Agriculture* のみであるが、平均的な本学学生には、少し高度すぎるきらいがある。そこで語彙・語法に重点をおいた準備学習的な補助音声教材を作成し、*Agriculture* にスムーズに入っていけるようにすることをねらった。今回は、畜産関係だけに限定した。

2. 農・畜産系学生向けの英語教材の現状

一般教養課程の外国語科目における「文学偏重」が批判されはじめて久しい。文学を教材にすることが不適切かどうかについては、議論もあるが、国内出版社からの大学英語教科書としては、小説類よりは、論説・エッセー（特に文化論）の類、および、会話・発音を含む総合教材が増えてきているようである。また、学生の専門に近い事柄を中心にテキストを組むことも広く行われるようになった。特に、理・工学部、医学部、商・経済学部の学生向けの英語教材は多種みられる。

しかし、農・畜産系学生向けをうたった英語テキストとなると、国内の出版社のものはない。かろう

じて、次の3点が多少農業・畜産に関連があると言えるかもしれない。

Ulane Bonnel 著 小林栄智 注釈 *West Texas* (三修社: 1980)

Wheeler McMillen 著 北川彰宏 編注 *The Green Frontier* (英宝社: 1975)

James Herriot 著 葉師川虹一, 若山活 編注 *Vet in Harness* (南雲堂: 1978)

しかし、以上3点は、あくまでも一般的な読み物であり、*Vet in Harness* 以外は録音テープさえ付いていない。海外では、Regentsから*English for Careers*のシリーズの一冊として*Agriculture in English*が予告されているが、未刊である。最近、Oxford Univ. Pressより*English in Focus*のシリーズ一冊として、*English in Agriculture*が録音教材をつけて出版されたと聞かすが、入手できないでいる。現在のところ、1966年に、English Language ServiceとCollier Macmillanから出た*Special English*シリーズのうちの*Agriculture*が、「農業英語」を扱ったもので、唯一の録音テープの完備された教材ということになる。

3. Macmillan の *Agriculture* の概要

3巻から成り、第1巻は主に土壌を、第2巻は畑作物、第3巻は主に園芸と畜産を扱っており、全部で63課の構成である。一課はまず本文として、短い読み物か、あるいは会話があり、次に専門用語の辞書の説明および例文、最後に、内容理解をためすための簡単なクイズがくる。本文と専門用語の部分が録音されている。

専門用語は、当然のことながら、英語で説明されており、英英辞典を引く練習になるし、例文の量・本文の量なども適切であると考えられるが、どちらかと言えば、英語をある程度マスターした人が、農業に関する英語を学ぶといった体裁をとっているため、農業をテーマにして英語を学習するようにはなっていない。したがって、語法・構文等の文法的な説明・練習はない。(OUPの*Focus in English*のシリーズでは、先に出た*English in Basic Medical Science*, *English in Biological Science*から見る限りでは、むしろ、語法・構文の理解・練習にポイントを置いているようである。)

4. 補助音声教材の作成

まず、本学の第2学年C・G学科の60名を対象にBook 3の15課から24課の範囲で語彙力の調査をした。各自割りあてられたところで、辞書を引かなければならなかった語句、および注をつけてもらいたい語句などを書き出してもらった。予想された通りではあるが、極めて基本的と思われる語も多数上げられた。

そこで、本文および例文から、かなり丁寧に語句をひろい出し、まず、あらゆる分野で共通して重要と思われる語句をBasic Vocabularyとして、畜産関係に特有な語句をTerminologyとして大別した。この分類は便宜上のもので、専門用語と言えないような基本単語もかなりTerminologyに入っている。次にどちらについても品詞別に分類し、意味的に対応をなすものをまとめるように配列し、課ごとの語句のプリントを作成した。このとき、Basic Vocabularyの方では、例文をつけるとともに、代入練習、展開練習等を随所に入れ、出来るだけ日本語による説明なしに、文法事項が、復習・習得できるようにした。例文作成ではnative speakerの協力を得た。

Agriculture 付属の音声教材は、全巻を通じて、アメリカ人の男声で収録されている。補助教材も General American を話す男の人をお願いした。付属の教材では、natural speed で録音されているが、補助教材は、語句の定着、語法の理解・練習が主な目的であるので、かなりスピードを落して吹き込んでもらった。各課平均して20分ぐらいのものとなった。

5. 教材の利用

Macmillan の *Agriculture* とその補助教材を使った実際の授業は次のようになるだろう。

- (1) 文字を見せずに、本文を聞かせる。VSCテープレコーダーを使用し、20%減速。
- (2) 補助教材のプリントを与えて、文字を見ながら語句の発音練習。
- (3) 補助教材の語句および語法についての若干の説明。
- (4) 補助教材の語句および語法の定着のための口頭練習。VSCテープレコーダーを使用して10%加速。
- (5) 再び、文字を見せずに本文を聞かせる。VSCテープレコーダーを使用し、10%減速。
- (6) 専門用語とその例文の発音練習。プログラム・エディター使用。
- (7) 若干の説明。
- (8) 専門用語とその例文の定着のための口頭練習。プログラム・エディター使用。
- (9) 文字を見せながら本文を聞かせる。
- (10) 本文の発音練習。プログラム・エディター使用。
- (11) 本文を文字を見せないで聞かせる。

最初に補助教材で十分、語句・語法を練習しておくので、本文の和訳・説明等はほとんどしなくてもよくなり、LL学習の効果が上ることと思う。